

保育絵本キンダーブックの歩みと昭和史

Childcare Picture Book Kinder-book History and Showa History

川 島 貴美江 ・ 進 藤 令 子^注
Kimie Kawashima and Reiko Sindo

はじめに

1927年（昭和2年）「観察絵本キンダーブック」が、株式会社フレーベル館より発刊された。「観察絵本キンダーブック」は、日本で初めての保育絵本として創刊され、2017年（平成29年）11月が創刊90年、本年度は95年を迎え、絵本は今日も刊行されている。1927年、初めてキンダーブックが生まれて以来、世界にも類を見ない長期発刊の歴史が始まったと言えるであろう。キンダーブックは、幼稚園や保育園への直接販売という独自の販売ルートを取り、創刊から一貫して同一の出版社「株式会社フレーベル館」が刊行している。一冊ごとにテーマを設定して、幼児の物の見方や行動範囲と製作者である大人の求めるもの、社会生活、文化などに対する見方などが基本的性格となっており、「観察絵本」として、事実をありのままに描く姿勢に基づいて作品の内容に反映されている。約一世紀にわたって、幼児の下に届けられてきた「キンダーブック」は幼稚園、保育園において子どもの心に深く語られてきた絵本である。本論は、1927年11月、フレーベル館（東京）で創刊された日本初の幼児絵本であるキンダーブックの誕生に、静岡ゆかりの人物（倉橋惣三氏、高市次郎氏）が関わっていた歴史を踏まえ、日本初の保育絵本「キンダーブック」と昭和史について論ずるものである。本稿は、キンダーブック創刊（1927年）から戦後10年（1956年・昭和30年）までをまとめたものである。

また、このまとめの機会を得ることができたのは、静岡英和学院大学図書館において、2022年（令和4年）11月より令和5年1月まで開催予定の「静岡ゆかりの幼児絵本で見る時代」と題して、キンダーブック絵本展を開催したことによる。開催は、静岡福祉大学との共催であり、株式会社フレーベル館株式会社フレーベル静岡の多大な協力によって可能となった。展示された絵本の背景には、さまざまな世界が内包されており、子どもの世界、教育の世界、文化・芸術の世界、日本の生活、文化の歴史も見せてくれる。

1 観察絵本キンダーブックと昭和史

観察絵本キンダーブックと昭和史においては、キンダーブック創刊、戦前1（1926【大正15，昭和元年】～1928【昭和3年】と1929【昭和4年】～1930【昭和5年】、戦前2（1931【昭和6年～1932【昭和7年】）、戦前3（1935【昭和10年】～1936【昭和11年】）、戦前4（1941【昭和16

^注 静岡福祉大学地域連携推進センター職員

年】～1942【昭和17年】）としてまとめている。

1-1 キンダーブックの創刊

1926（大正15）年4月21日、フレーベル生誕の日に、「幼稚園令」が公布され、翌22日「幼稚園施行規則」が制定され、従来の「遊戯、唱歌、談話、手技」の4保育項目に新たに「観察」の項目が加えられたことにより「観察」は関心と呼び、1927（昭和2）年5月株式会社フレーベル館の新たな事業として「観察絵本」の発刊が計画され、幼児用教育絵本として創刊される事となった。

（株）フレーベル館創業者である高市次郎は絵本創刊の意図を次のように伝えている。「幼児教育界の権威岸辺福雄先生編集指導のもとに、種々の点に新機軸を出し、真に本誌の使命を完ふしたいと記している。文字を自由に読むことの出来ない幼児の為に、絵画を以て描かれたる、統一あり、連絡ある一冊の単行書籍である。新幼稚園令の観察項目の加へられたるを機として弊社は此の新計画を発表し、謹みて大分斯界に捧げたいと思ふ」¹（「幼稚園用品目録」昭和2年度より）雑誌の名前は、「知識の宝庫」という意味で、「チコ」という案も出たが、結果として「キンダーブック」となった。

父、高市次郎の後、社長に就く息子の高市慶雄は、当時東京女子大学で西洋史の教鞭をとっていたが、幼稚園令に観察という項目が加えられたので、これには本が必要であり、直接編集にあたり、「お米の巻」が創刊された。

1928（昭和3）年3月、第2編「乗物の巻」が発行、第2編から倉橋惣三が編集顧問となった。

第1集第1編の「お米の巻」は、表紙はミレーの落穂拾いが描かれている。（1-2 キンダーブックと昭和史 戦前1を参照）

^注 フレーベル館100年のあゆみ P47

1-2 キンダーブックと昭和史（戦前1）

●1926（大正15，昭和元年）～1928（昭和3年） ●1929（昭和4年）～1930（昭和5年）

1926年

- 12月25日 大正天皇崩御
- 4月 幼稚園令公布。「幼稚施行規則」を制定。
幼稚園の保育項目は「遊戯、唱歌談話、手技等」とされた。
従来の4項目に観察が加えられた。

1927年

- 1月 アメリカから青い目の人形が届く。
- 12月 浅草～上野日本初の地下鉄が開通。
- 11月 「観察絵本キンダーブック」創刊。
第1編「お米の巻」(定価50銭)
フレール館創業者高市次郎氏(52歳)
倉橋惣三氏(44歳)
- 東京女子高等学校附属幼稚園に日本初の
ジャングルジムが設置。

1928年

- 2月 第1回普通選挙が実施される。
- 8月 NHK大阪放送局 ラジオ体操を開始。
- 11月 ウォルト・ディズニーのアニメ番組
「蒸気船ウィリー」公開される。
- この映画でミッキーマウス初めて登場。
- 東京駅のホームに初のエレベーターが設置。



★1927年11月 創刊
第1輯第1編 お米の巻

1929年

- 1月 童謡「毬と殿様」が発表される。
- 7月 日本航空旅客機
東京～福岡間の定期旅客輸送を開始する。
- 10月24日 世界大恐慌起こる。
- 4月 キンダーブックは第2集から月刊となる。

1930年

- 3月 東京銀座の松坂屋屋上に児童遊技場が新設される。
- 10月 東京、大阪、横浜に
わが国初の自動式公衆電話が登場。
- 11月 東京日比谷の交差点に
わが国初の自動交通整理信号機が登場。
- 紙芝居「黄金バット」が誕生 流行する。
- 4月 キンダーブックは第3集第一編より
定価35銭に値下げされる。
倉橋惣三氏
東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる。



1928年3月
第1輯第2編 乗物の巻



1929年1月
第1輯第8編 雪と水の巻



1929年2月
第1輯第9編 お人形の巻



1929年9月
第2輯第6編 木の巻



1929年11月
第2輯第8編 熱と光の巻



1930年2月
第2輯第11編 住居の巻



1930年5月
第3輯第3編 遊戯の巻



1930年6月
第3輯第3編 牛の巻



1930年9月
第3輯第6編 果物の巻



1930年12月
第3輯第8編 職業の巻

1-3 キンダーブックと昭和史（戦前2）

●1931（昭和6年）

1931年

- 4月 NHK東京放送局 ラジオ第2放送開始。
- 5月 アメリカで世界一高いビル エンパイヤーステートビルディングが竣工される。高さは381m。
- 8月 東京飛行場(羽田空港)完成。
- 9月 満州事変勃発。戦争や兵隊さんが子どもたちに人気となる。
- 前年末から日本橋三越で「御子様洋食」が、この年から上野松坂屋で「お子様ランチ」が食堂で提供される。



1931年4月
第4巻第1号 樹の花



1932年1月
第4巻第10号 おさる



1932年2月
第4巻第11号 おだうぐ



1932年5月
第5巻第2号 トケイ



1932年6月
第5巻第3号 セカイノイウギ



1932年8月
第5巻第5号 ハシ



1932年11月号
第5巻第8号 オムスビ

●1932（昭和7年）

1932年

- 1月 上海事変勃発。
- 3月 満州国建国宣言。
- 5月 海軍将校らが犬養毅首相を暗殺。(5・15事件)
- 7月 第10回ロサンゼルスオリンピック開幕。
- この年「一番星みつけた」「蛭」「チューリップ」などの童謡が生まれた。
- 4月 『ツバメノオウチ』(キンダーブックに添付)創刊。
絵画、童謡、講話、作曲、振付、解説などの入った菊版68ページの冊子で、本誌キンダーブックと2冊で35銭。



『ツバメノオウチ』創刊
1932年4月 第4巻第4号

●1933（昭和8年）～1934（昭和9年）

1933年

- 1月 ナチスが政権獲得。ヒトラーが首相に就任する。
- 3月 日本 国際連盟を脱退する。
- 4月 「サイタサイタ サクラガ サイタ」で始まる 第4期国定国語教科書が使用開始となる。
初のカラー印刷の教科書で通称「サクラ読本」と呼ばれる。
- 12月23日 皇太子(後の平成天皇)が誕生。
- 幼稚園児から大人までヨーヨーが大流行する。
- のらくろキャラクター商品がブームとなる。
- ミッキーマウスが子どもたちに人気となる。



1933年1月号
第5巻第10号 ニハトリ



1933年4月
第6巻第1号 クサバナ



1933年10月
第6巻第7号 小サイロ

1934年

- 4月 渋谷駅前に忠犬ハチ公の銅像が建てられる。
- 11月 ベーブルースらアメリカ大リーグチームが来日する。
- 4月 第7集より横長大判から縦長大判(320×255mm)16ページに改める。
- 12月 キンダーブック美術特集号「子どものための顔絵集」(80銭)発行。



1933年4月
第7巻第1号 オモチヤ



1933年7月
第7巻第4号 マネゴト

1-4 キンダーブックと昭和史（戦前3）

●1935（昭和10年）～1936（昭和11年）

1935年

- 4月 NHK東京放送局が全国向けの学校放送を開始。
幼稚園・保育所向けの番組として「幼児の時間」が放送される。
- 6月 シヤム(現・タイ)から上野動物園にインド象一頭が贈られる。
「花子」と命名される。

1936年

- 2月 2・26事件勃発。
- 2月 巨人軍など7球団で、日本職業野球連盟を結成。
- 8月 第11回ベルリンオリンピックが開催される。
この大会から聖火リレーが始まる。
- 11月 国会議事堂の竣工式が行われる。
- 第9集より版型が小型(320×235mm)で20ページとなる。



●1937（昭和12年）～1938（昭和13年）

1937年

- 4月 ヘレンケラー来日。
- 7月7日 日中戦争勃発。
- 出版界に対し、商工省による用紙節約要請が始まる。
- 4月 創立30周年 キンダーブック創刊10周年記念園遊会を開催。
- 全国の幼稚園が2000園に達する。



1938年

- 4月 国家総動員法公布
- 内務省による雑誌浄化運動や陸軍省による出版言論の統制が始まる。
- 6月 キンダーブック創刊以来初の物語絵本「ネコサマ」(第11集第3巻)が刊行。



●1939（昭和14年）～1940（昭和15年）

1939年

- 3月 戦闘機、零戦の試作機が完成。
- 5月 ノモンハン事件起こる。
日本軍が大敗する。
- 7月 国民徴用令公布。
これにより国民の労働力は強制的に徴用されることになった。
- 9月 第二次世界大戦勃発。

1940年

- 9月 日独伊三国同盟。ベルリンで調印。
- 10月 国民統制組織、大政翼賛会が結成される。
- 11月 皇紀2600年祝賀式典が行われる。
- 11月 この年、出版諸団体は解散し、新たに日本出版文化協会が発足する。
情報局指導下の出版資材の配給統制と企業整理を行うようになる。



1-5 キンダーブックと昭和史（戦前4）

●1941（昭和16年）～1942（昭和17年）（戦前4）

1941年

- 3月 国民学校令が公布。
小学校を国民学校と改称。
- 5月 日本出版配給株式会社設立。
- 10月 東条英機内閣成立。
- 12月 日本少国民文化協会発足。
戦時下の児童出版関係者を
一元的に統制する情報主管の法人。
- 12月8日 日本軍が真珠湾を攻撃。
太平洋戦争開戦。
- 11月 商号をフレーベル館から日本保育館に変更。
代表取締役就任 高市慶雄氏
(戦前統合前のキンダーブックは最高部数37万部)

★商号 フレーベル館→日本保育館へ



1941年5月
第14巻第2巻
ミツノ オハナシ

1942年

- 4月 米軍機による本土初空襲。
- 6月 ミッドウェー海戦。日本軍惨敗。
- 4月 「観察絵本キンダーブック」第15集より
「観察絵本ミクニノコドモ」に改題。
全国書店で一斉発売となる。

●1943（昭和18年）～1944（昭和19年）

1943年

- 5月 佐伯政治氏(現・フレーベル静岡元社長)
日本保育館入社。
- 8月 上野動物園、猛獣を菜殺。
- 9月 イタリア、連合軍に無条件降伏。
- 10月 学徒出陣始まる。
- 第16集3巻より、誌面がB判20ページとさらに小型化する。

1944年

- 8月 学童疎開始まる。
- 11月 米軍爆撃機B29が初めて大編隊で東京爆撃。
- 1月、「観察絵本ミクニノコドモ」第16集第11巻「セキタンヲホルヒト」にて終刊。
- 6月 フレーベル館創業者・高市次郎 静岡市麻呂町に疎開
同代表取締役 高市慶雄 静岡市大岩に疎開



1941年12月
第14巻第6巻
ハタラクヒト



1942年2月
第14巻第12巻
ハナトムシ

以上キンダーブックと昭和史について、創刊から、戦前1、戦前2、戦前3、戦前4と区切り、まとめた。

1941年以降、太平洋戦争に向かうまで、時代の影響を受けたキンダーブックの歩みについて、以下年表にあらわす。

1941（昭和16）年5月	出版物の一元的配給機関として、日本出版配給株式会社が設立され「キンダーブック」の直販方式は解体する。
1941（昭和16）年11月1日	「株式会社フレーベル館」を「株式会社日本保育館」と改称。
1941（昭和16）年12月8日	太平洋戦争勃発
1942（昭和17）年4月	「観察絵本キンダーブック」を「観察絵本ミクニノコドモ」と改題
1942（昭和17）年4月	日本出版文化協会は出版物の発行承認制を採用し、9月からは承認番号のない書籍の発行を禁止
1943（昭和18）年3月	日本出版文化協会解散、日本出版会設立、11月情報局は出版事業整備要綱を発表、日本出版会に実施を命令
1943（昭和18）年 第16集第3編	第16集第3編より誌型が縮小され、「タタカフ カイゲン」「五ツノタカラ」「キカラフネヘ」といった戦争や生産が主題となった。
1944（昭和19）年 1月26日発行第16集第11編	「セキタニンヲホルヒト」を最後に、「観察絵本ミクニノコドモ」終刊

2 キンダーブック復刊と戦後

2-1 キンダーブック復刊

1944（昭和19）年6月に株式会社フレーベル館会長の高市次郎が、静岡市鷹匠町に疎開する。また、社長の高市慶雄が、静岡市大岩に疎開する。1945（昭和20）年8月15日に戦争が終結し、1945（昭和20）年9月10日、GHQ（連合国軍総司令部）が日本政府に対し「言論及び新聞の自由に関する覚書」を発令した。また同年9月27日には、GHQが、日本政府に対して「新聞及び言論の自由への追加措置に関する覚書」を指令した。このことを受けて1945（昭和20）年9月30日、日本出版会は解散し、1945（昭和20）年10月6日、出版事業令、同施行規則廃止される。

1947年（昭和22年）、フレーベル館発行の絵本「マッカーサー元帥」が刊行された。1948年（昭和23年）11月、GHQ渉外局は、「キンダーブックは、アメリカにおいても類誌のない独自のものである」と評している。

2-2 戦後10年昭和（21年から昭和31年）のキンダーブックの内容について

番号	年月日	掲載号	タイトル
1	昭和21年8月	第1集第1編	ムギ
2	昭和21年10月	第1集第2編	ウミトコドモ
3	昭和21年11月	第1集第3編	オヒサマノコドモ
4	昭和21年12月	第1集第4編	ハシレキカンシャ
5	昭和22年3月	第1集第5編	フユノドウブツ
6	昭和22年4月	第2集第1編	ヨウチエン
7	昭和22年5月	第2集第2編	たんぼぼ
8	昭和22年6月	第2集第3編	やさしいことり
9	昭和22年7月	第2集第4編	とうだいのこども
10	昭和22年8月	第2集第5編	たのしいなつ
11	昭和22年9月	第2集第6編	おこめ
12	昭和22年10月	第2集第7編	ありがとう
13	昭和22年11月	第2集第8編	うんどうかい
14	昭和22年12月	第2集第9編	ゆきのおくに
15	昭和23年1月	第2集第10編	みかん
16	昭和23年2月	第2集第11編	やさしいおかあさん
17	昭和23年3月	第2集第12編	さくら
18	昭和23年4月	第3集第1編	つばめさん
19	昭和23年5月	第3集第2編	ねことねずみ
20	昭和23年6月	第3集第3編	せみのはなし
21	昭和23年7月	第3集第4編	さつまいも
22	昭和23年8月	第3集第5編	ぼくらのこうえん
23	昭和23年9月	第3集第6編	おつきさんのたび
24	昭和23年10月	第3集第7編	おちばとくのみ
25	昭和23年11月	第3集第8編	おまわりさん
26	昭和24年1月	第3集第9編	きしゃ
27	昭和24年2月	第3集第10編	はるがきた
28	昭和24年3月	第3集第11編	はなうりおじいさん
29	昭和24年4月	第4集第1編	こどもどうぶつえん
30	昭和24年5月	第4集第2編	とけい
31	昭和24年6月	第4集第3編	あめ
32	昭和24年7月	第4集第4編	おてがみ
33	昭和24年8月	第4集第5編	うみのこども
34	昭和24年9月	第4集第6編	おつきさん
35	昭和24年10月	第4集第7編	あきのおやま
36	昭和24年11月	第4集第8編	りんご
37	昭和24年12月	第4集第9編	ぼくのおうち
38	昭和25年1月	第4集第10編	たのしいのりもの
39	昭和25年2月	第4集第11編	ふゆのこども
40	昭和25年3月	第4集第12編	ぞうさん
41	昭和25年4月	第5集第1編	はるのともだち
42	昭和25年5月	第5集第2編	おかあさん
43	昭和25年6月	第5集第3編	おひさま
44	昭和25年7月	第5集第4編	ゆうびんやさん
45	昭和25年8月	第5集第5編	あり
46	昭和25年9月	第5集第6編	いろいろなおうち
47	昭和25年10月	第5集第7編	おみせやさん
48	昭和25年11月	第5集第8編	わたくしたちのために
49	昭和25年12月	第5集第9編	きもの
50	昭和26年1月	第5集第10編	おしょうがつ
51	昭和26年2月	第5集第11編	ゆきのひ
52	昭和26年3月	第5集第12編	おさるさん
53	昭和26年4月	第6集第1編	みんなたのしく
54	昭和26年5月	第6集第2編	おおきくなれつよくなれ
55	昭和26年6月	第6集第3編	きのはなし
56	昭和26年7月	第6集第4編	おほしさま
57	昭和26年8月	第6集第5編	おうちのまわり
58	昭和26年9月	第6集第6編	きしゃごっこ
59	昭和26年10月	第6集第7編	みち

番号	年月日	掲載号	タイトル
60	昭和26年11月	第6集第8編	くまのはなし
61	昭和26年12月	第6集第9編	うちじゅうたのしく
62	昭和27年1月	第6集第10編	おおきいな
63	昭和27年2月	第6集第11編	ひのいろいろ
64	昭和27年3月	第6集第12編	にんぎょうのくに
65	昭和27年4月	第7集第1編	はるのえんそく
66	昭和27年5月	第7集第2編	うし
67	昭和27年6月	第7集第3編	かわのたび
68	昭和27年7月	第7集第4編	なつがきた
69	昭和27年8月	第7集第5編	みつばちのくに
70	昭和27年9月	第7集第6編	スポーツ
71	昭和27年10月	第7集第7編	すずめ
72	昭和27年11月	第7集第8編	マザー・ゲースこどもたのうた
73	昭和27年12月	第7集第9編	すみ
74	昭和28年1月	第7集第10編	たのしいあそびうた
75	昭和28年2月	第7集第11編	かわいいいぬ
76	昭和28年3月	第7集第12編	はるになる
77	昭和28年4月	第8集第1編	おもしろいな
78	昭和28年5月	第8集第2編	うま
79	昭和28年6月	第8集第3編	かえる
80	昭和28年7月	第8集第4編	たのしいふねのたび
81	昭和28年8月	第8集第5編	なつやすみ
82	昭和28年9月	第8集第6編	せっけん
83	昭和28年10月	第8集第7編	おいしいな
84	昭和28年11月	第8集第8編	ふゆがくる
85	昭和28年12月	第8集第9編	くるみわりにんぎょう
86	昭和29年1月	第8集第10編	どうぶつのおしょうがつ
87	昭和29年2月	第8集第11編	ゆきぐに
88	昭和29年3月	第8集第12編	いきもの
89	昭和29年4月	第8集第1編	はるがきたきた
90	昭和29年5月	第9集第2編	まわれまわれ
91	昭和29年6月	第9集第3編	じょうぶなこども
92	昭和29年7月	第9集第4編	うみのうた
93	昭和29年8月	第9集第5編	なつのむし
94	昭和29年9月	第9集第6編	おつきさま
95	昭和29年10月	第9集第7編	くだもの
96	昭和29年11月	第9集第8編	がらす
97	昭和29年12月	第9集第9編	みつつのおはなし
98	昭和30年1月	第9集第10編	こどものおしょうがつ
99	昭和30年2月	第9集第11編	わたしはせきたん
100	昭和30年3月	第9集第12編	おやりすこりす
101	昭和30年4月	第10集第1編	みんなでつくりましょう
102	昭和30年5月	第10集第2編	ごがつ
103	昭和30年6月	第10集第3編	あめのちびちゃんたち
104	昭和30年7月	第10集第4編	さかな
105	昭和30年8月	第10集第5編	なつやすみのかんさつ
106	昭和30年9月	第10集第6編	なつやすみのかんさつ
107	昭和30年10月	第10集第7編	れおちゃんのぼうけん
108	昭和30年11月	第10集第8編	でんき
109	昭和30年12月	第10集第9編	おうち
110	昭和31年1月	第10集第10編	おしょうがつ
111	昭和31年2月	第10集第11編	きもの
112	昭和31年3月	第10集第12編	つつ

2-3 キンダーブックと昭和史（戦後1）

●1945（昭和20年）～1946（昭和21年）

1945年

- 8月 広島・長崎に原爆投下、ポツダム宣言受諾。
- 8月15日 終戦。
- 8月30日 連合国軍最高司令官マッカーサー厚木に進駐。
- 9月27日 天皇 マッカーサーをご訪問。
- 8月30日 日本出版会が解散。
- 9月21日 GHQ「日本出版法」(プレスコード)発令。
- 10月6日 出版事業令同施行規則廃止。
- 10月8日 GHQ 新聞の事前検閲を開始。
- 12月 日本初のマッカーサー元帥伝記「マッカーサー元帥」(丹頂書房)発行。日本人で初めてマッカーサー元帥の伝記を書いた山崎一芳氏(静岡県掛川市出身)

1946年 ★キンダーブックタイトル 右→左へ

- 日本国憲法公布
- 1月1日 「日本ノドモ」(国民図書刊行会)発行。
巻頭に「マッカーサー元帥」が写真入りで紹介された。
- 1月9日 GHQ 米国教育使節団に協力する日本側教育委員会の設置を指令。
- 1月30日 「株式会社日本保育館」を「株式会社フレーベル館」に変更。
- 3月 フレーベル館2代社長 高市慶雄氏、静岡市大岩にて没(48歳)
- 3月5日 GHQの要請により米国教育使節団来日。
- 4月7日 同使節団報告書発表
官僚統制の排除、教育の地方移譲、9年生義務教育、教科書民主化、男女共学措置の改善、育児学校(保育所)や幼稚園の設置を勧告。
- 8月20日 雑誌絵本「キンダーブックムギ」復刊。★キンダー
- 8月25日 川田正子が「みかんの花咲く丘」を歌い'23年1★キンダーブック カタカナ→ふりがなへ



●1947（昭和22年）～1949（昭和24年）

1947年

- 5月 絵本「マッカーサー元帥」(フレーベル館)発行。
山崎一芳 監修
- 10月 山崎一芳氏 フレーベル館取締役就任。

1948年

- 3月 文部省「保育要領 幼児教育の手びき」発行。
- 5月 厚生省 母子手帳の配布を開始。
- 6月 静岡県初の幼児絵本『あそび』(片井商會出版部、静岡市)創刊号発行。(最終号は36巻3号、1982年3月)
- 11月 日本保育学会発足
- 11月 連合軍最高司令官発表「キンダーブック」についてのコメント
日本雑誌界の現況に関して報告書を発表した。「特に日本に於いて最も広く読まれている10誌中第3位にキンダーブックを挙げ、漸かる種類の雑誌誌はアメリカに於いてもその例がない」とキンダーブックを評価。
- 山崎一芳氏 フレーベル館専務就任。

1949年

- 4月 月刊「チャイルドブック」チャイルド社より創刊(婦人画報社)
フレーベル館創立者高市次郎氏に意欲を受けた人々が集まり、チャイルド社創立「キンダーブック」厚生大臣より推薦状を受ける。
- 5月 月刊「チャイルドブック」国民図書刊行会より創刊
- 10月 「日本ノドモ」の改題誌
フレーベル館代理店制度を改編し、以後「保育館」と称す。
昭和24年10月時の全国保育館(名称・責任者)
静岡保育館 佐伯政治氏(静岡)
湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞。
お年玉付年賀はがき初発売。



2-3 キンダーブックと昭和史 (戦後2)

●1950 (昭和25年)～1957 (昭和32年)

1950年

- 6月 「日本放送協会」設立。
- 10月 経営難のため出版社の廃業倒産続出
いわゆる「ゾッキ本」氾濫。
- 12月 経営難に陥ったフレーベル館の再建を
凸版印刷㈱に要請。

1951年

- 1月 NHK第一回紅白歌合戦を放送。
- 9月 サンフランシスコ講和会議開かれる。

1952年

- 2月 月刊「ひかりのくに」創刊。
ひかりのくに昭和出版
- 3月 厚生省「保育指針」刊行。
- 4月 月刊「よいこのくに」創刊。学習研究社
- 4月28日 サンフランシスコ平和条約発効。
連合国軍の占領が終わる。
- 7月 山崎一芳氏「新夕刊」社長に就任。

1953年

- 6月 倉橋惣三著「幼稚園真諦」刊。
- 2月 NHK テレビ放送開始。

1954年

- 1月5日 静岡の保育絵本「フレンドブック」創刊。
- 3月 第五福竜丸 ビキニ島付近で被爆。
- 4月 静岡初の小学校副読本
「一年の友」「二年の友」創刊。
- 6月 「学校給食法」公布。
- 9月23日 久保山愛吉氏、急性放射能症で死去。
- 12月 鳩山一郎内閣発足。



1954年1月 第1巻第1編 たのしいおしょうがつ
1954年1月 第1巻第7号 小学副読本一年の友

1955年

- 4月 月刊「こどものとも」創刊
福音館書店
- 10月 日ソ国交回復
- 12月 「幼稚園設置基準」制定
(32年2月1日施行)
- 石橋湛山内閣発足

1956年

- 4月 倉橋惣三氏 没(72歳)
- 5月 フレーベル館創業者高市次郎氏
厚生大臣賞受賞
- 6月 「後樂園ゆうえんち」開場
- 10月 文部省「幼稚園幼児指導要録」改訂

1957年

- 1月 フレーベル館創業者高市次郎氏没
(82歳)
- 6月 「後樂園ゆうえんち」開場
- 10月 文部省「幼稚園幼児指導要録」改訂



1950年4月 第5巻第1編 はるのおともだち おひさま
1950年6月 第5巻第3編 いろいろなおうち わたくしもの
1950年9月 第5巻第6編 いるいるなうち
1950年11月 第5巻第8編 ために



1951年2月 第5巻第11編 ゆきのひ
1951年4月 第6巻第1編 みんなのしく
1951年6月 第6巻第3編 きのはなし
1952年9月 第7巻第6編 スポーツ



1952年10月 第7巻第7編 すずめ
1952年11月 第7巻第8編 こどものうた
1953年2月 第7巻第11編 かわいいいぬ
1953年5月 第8巻第2編 うま



1953年9月 第8巻第6編 せつけん
1954年1月 第8巻第10編 どうぶつの
1954年3月 第8巻第12編 いきもの
1954年4月 第9巻第1編 はるがきたきた



1954年6月 第9巻第3編 じょうぶなこども
1954年10月 第9巻第7編 くだもの
1955年1月 第9巻第11編 わたしはせきたんみんなはたらく
1956年11月 第11巻第8編

『フレーベル館100年史』(フレーベル館)

※フレーベル静岡寄贈

『キンダーブックの90年』(印刷博物館)等より

3 静岡ゆかりの倉橋惣三と高市次郎

倉橋惣三は、1882（明治15年）静岡市鷹匠町に生まれた。鷹匠町の地名は、今日そのまま残っている。父は旧幕臣であったため、静岡と岡山の小学校を出て、東京の浅草小学校を卒業する。高等学校時代に、内村鑑三による聖書の研究会に参加する。東京帝国大学卒業後、東京女子高等師範学校で教え、約25年にわたって付属幼稚園の主事を勤めた。学生指導のほか全国各地への講演に出向き、保育界へ大きな影響を及ぼした。倉橋が現役から引退するのが、終戦後間もない1949年（昭和24年）、亡くなったのが1955年（昭和30年）であった。引退する前の1948年（昭和23年）3月、文部省は「保育要領－幼児教育の手引き－」を出す。今の「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の前身となる。この保育要領を作る上で、倉橋は中心となった。また、倉橋は、フレーベル館と深い関係になっていくのである。

一方、高市次郎は、1876年（明治9年）、1月19日愛媛県温泉郡小野村大字平井谷（現・愛媛県松山市）の高市浪次・ムメヨの長男として生まれた。1897年（明治30年）に愛媛県尋常師範学校卒業（21歳）後、翌年には結婚し、長男が生まれる。長男が高市慶雄であり、父親の後、フレーベル館を継ぐことになる。1905年までは、（明治38年）まで愛媛県内の尋常高等小学校で教鞭をとった。高市次郎は、フレーベル館を創業し、発展させる。この歴史においても倉橋惣三と深く結び付いていく。高市次郎は、1944年（昭和19年）6月に静岡市鷹匠町に疎開している。息子の高市慶雄も同年に静岡市大岩に疎開している。

3-1 倉橋惣三とキンダーブック

「株式会社 フレーベル館」を「株式会社 日本保育館」と改称していたが、1946年（昭和21年）1月30日、「株式会社 日本保育館」を旧社名の「株式会社 フレーベル館」に変更した。フレーベル館は、1946年（昭和21年）、6月22日の朝日新聞に次のような広告を載せている。「幼児の夢、明るく正しく美しい観察絵本、キンダーブック（再刊）、8月号ムギの巻、7月上旬発売部数限定、至急ご予約」（フレーベル館100年史）。

1946年（昭和21年）、8月20日、「観察絵本キンダーブック」第1集第1編ムギが復刊する。復刊にあたり、倉橋惣三は、巻頭において「新しいもの～キンダーブックの再刊」を掲げ、次のように述べている。「散った後に、落ちた後に、古い根から新芽がふく。新しい種子に、前とは別の花と実が待たれる。その更生の気は勇ましく、成長の力は、逞しい。今や初夏の自然がそれであり、立ち上がる国の勢いがそれだ。その大きい勢いに押されて、幼い子らの園に蘇るキンダーブックの再刊も亦、その一つである。まえからの親しみをつづけて頂きたいし、これからの新らしみを期待しても頂きたいし。新しいものによってこそ、子らを新しくし、国を新しくしてゆけるのであるから裁えよう、裁えよう。培おう培おう、幼い子らの園に」倉橋惣三の熱い思いが伝わってくるようである。

倉橋惣三がキンダーブックに関係するとおもわれる主な事項を以下年表に紹介する。

和暦	西暦 (年)	年齢	主な事項
明治15	1882	0歳	12月28日、父、倉橋正直、母、とくの長男として静岡市鷹匠町で生まれる。
明治39	1906	23歳	7月 東京帝国大学哲学科卒業
明治43	1910	27歳	東京女子高等師範学校講師
明治45	1912	29歳	「婦人と子ども」の編集兼発行者となる
大正6	1917	34歳	11月 東京女子高等師範学校教授
大正12	1923	40歳	「お茶の水人形座」で幼児のための人形芝居を始める
大正13	1924	41歳	東京女子高等師範学校附属高等女学校主事に就任
昭和2	1927	44歳	東京女子高等師範学校附属高等女学校主事を退任。11月、幼稚園令に伴い、観察絵本キンダーブック第1編「お米の巻」創刊、(定価50銭)、倉橋惣三、賛助会員となる
昭和4	1928	45歳	キンダーブック第2集編集会議実施(倉橋惣三出席) 12月、文部省社会教育官を兼任、成人教育の指導に当たる
昭和5	1930	47歳	東京女子高等師範学校附属幼稚園主事、
昭和13	1938	55歳	東京丸の内ビルにて、倉橋惣三他を中心としたキンダーブック編集会議実施
昭和21	1946	63歳	8月 観察絵本キンダーブック「ムギ」復刊(定価6円50銭)
昭和22	1947	64歳	11月 全国保育連合会結成会長就任
昭和30	1955	72歳	4月 逝去

3-2 フレーベル館創業者 高市次郎について

明治40年4月、高市次郎は、4月東京麹町区飯田町四丁目(現・千代田区飯田橋二丁目)に白丸屋(フレーベル館の前身)を開店し、保育用品の研究製造販売を開始した。創業の翌年、高市は幼稚園を創設し、最初の保母養成所を開き、幼児のための恩物を考案制作した、ドイツの教育家フレドリヒ・フレーベル(1782-1852)をたたえ、社名をフレーベル館と改めた。

高市は、1876年(明治9年)、1月19日高市次郎 愛媛県温泉郡小野村大字平井谷(現・愛媛県松山市)の高市浪次・ムメヨの長男として生まれた。1897年(明治30年)に愛媛県尋常師範学校卒業(21歳)後、翌年には結婚し、長男(高市慶雄)が生まれる。1905年(明治38年)まで愛媛県内の尋常高等小学校で教鞭をとった。1906年(明治39年)上京し東京神田区橋本小学校(現在廃校)へ奉職、同時に東京物理学校に学ぶ。30歳である。1907年(明治40年)4月、東京麹町区飯田町四丁目(現・千代田区飯田橋二丁目)に白丸屋(フレーベル館の前身)を開店し保育用品の研究

製造販売を開始した。翌年4月九段中坂下（現・九段北一丁目）に移転し、店名をフレーベル館と改称する。日英大博覧会に恩物を出品受賞したり、店内に「日本玩具研究会」設立した。1909年（明治42年）、4月フレーベル館最初のPR広告を「婦人と子ども」4号に掲載した。当時の主な販売商品は・恩物、机椅子、運動具、遊戯具、玩具、絵かるた、組み立て 積木、恩物コマ、シングルベルス、はりえ、書籍等などであり、高市は、しばしば大阪に出張し販売促進に努める。

また、新案シーソーを発売し、好評を得たり、「婦人と子ども」に恩物PR広告をのせ、販売促進をはかる。1912年、36歳である。1913年（大正2年）、9月、麴町区三番町六番地（現・千代田区九段南三丁目）に新社屋に移転、これが初の専門玩具店である。当時の「日本玩具研究会」の評議員が高市のほか、巖谷小波、倉橋惣三、和田實である。

1920年（大正4年）、高市氏44歳の時、フレーベル館を「株式会社」に改組（資本金25万円）取締役社長に就任する。また、1921年（大正10年）、2月、45歳で、神田区今川小路（現・神田神保町三丁目）に新社屋が落成し、3月1日開店、東洋一の児童デパートとして宣伝される。現・株式会社フレーベル静岡 元社長、佐伯政治氏が入社する。1923年（大正12年）9月、関東大震災が勃発し、社屋及び全商品を消失してしまう。同年12月、本店を小石川区指ヶ谷町（現・文京区白山二～四丁目）に移転した。

以下、観察絵本キンダーブック第1編「お米の巻」創刊から高市の主な歩みを年表にまとめる。

和暦	西暦 (年)	年齢	主要事項
昭和2	1927	51歳	11月 幼稚園令に伴い、観察絵本キンダーブック第1編「お米の巻」創刊（定価50銭）（賛助員 堀七蔵 及川ふみ 和田實 河野清丸 土川五郎 倉橋惣三 藤五代策 浅尾清記 岸辺福雄 森川正雄他）※本文P3、1－2 戦前1 参照
昭和3	1928	52歳	3月 観察絵本キンダーブック第2編「乗物の巻」発行 12月 神田一ツ橋帝國教育会館内に本社事業所を移転
昭和4	1929	53歳	4月 キンダーブック第2集刊
昭和5	1930	54歳	4月 キンダーブック第3集より 定価35銭に値下げ
昭和7	1932	55歳	3月 取締役副社長 高市慶雄就任 4月「ツバメノオウチ」創刊（キンダーブックに添付）12月 本社25周年記念祭挙行政
昭和12	1937	61歳	4月 創立30周年 キンダーブック創刊10周年 記念園遊会を成増菟月園にて開催、会長就任・高市次郎 社長就任・高市慶雄
昭和13	1938	62歳	10月 倉橋惣三 岸辺福雄 和田實 河野清丸を中心としたキンダーブック編集会議実施（東京丸の内会館）
昭和16	1941	65歳	11月 商号を「株式会社日本保育館」と変更 代表取締役就任・高市慶雄（統合前のキンダーブックは最高部数37万部）

昭和17	1942	66歳	4月「観察絵本キンダーブック」を戦時統制により「観察絵本ミクニノコドモ」 ¹ と改題（定価35銭） 全国書店にて一斉発売
昭和19	1944	68歳	1月「ミクニノコドモ」第16集第11編を最後に企業整備によって終刊し 6月、高市次郎 静岡市鷹匠町に疎開する、高市慶雄も静岡市大岩に疎開。このころ日本保育館は休業状態に入る
昭和20	1945	69歳	終戦
昭和21	1946	70歳	1月 商号を「株式会社フレーベル館」に変更 3月 元社長高市慶雄 静岡市大岩にて没（49歳） 8月 観察絵本キンダーブック「ムギ」復刊（定価6円50銭） 10月 「幼児の教育」が復刊され 印刷 販売実務の一切がフレーベル館に委託された（編集主幹・倉橋惣三 編集委員・牛島義友 及川ふみ 斎藤文雄 多田鉄雄 山下俊郎 編集部員・丸山長治） 1月「ヒカリノクニ」創刊 昭和出版
昭和22	1947	71歳	5月「マッカーサー元帥」（＊山崎一芳企画（掛川市出身）佐藤義美・奈街三郎文吉澤廉三郎・耳野卯三郎画）刊 8月 明和印刷社内の仮社屋から神保町二丁目のフレーベル館社屋に復帰
昭和23	1948	72歳	11月 日本保育学会発足
昭和24	1949	73歳	4月 月刊「チャイルドブック」創刊号 高市次郎に薫陶を受けた人々が集まり、チャイルド社を創立 5月厚生大臣 キンダーブックを推薦
昭和25	1950	74歳	5月 キンダーブック第5集第4編より 凸版印刷(株)板橋工場で印刷開始 12月 経営難に陥ったフレーベル館の再建を凸版印刷(株)に要請
昭和27	1952	77歳	11月 本社 神田小川町二丁目に移転
昭和30	1955	80歳	4月 倉橋惣三 没（72歳）
昭和31	1956	81歳	5月 高市次郎 厚生大臣賞受賞
昭和32	1957	82歳	1月 高市次郎 没

倉橋惣三の死後、2年後高市次郎もこの世を去る。そもそも倉橋惣三とフレーベル館との縁は深く、フレーベル館の創設者が高市次郎である。倉橋が静岡市鷹匠町に生まれ、高市次郎が静岡市鷹匠町に疎開していた。高市の長男も静岡市大岩に疎開していた。高市次郎、倉橋惣三の没した頃は、戦後の最悪の状況であったと思う。2人はこの時代に保育者のやさしさに強い期待を込めていた。子どもたちにとって明るい未来づくりをする保育への夢をいだいていたことであろう。

あとがき

気持ちを込めて語られた言葉は、人間の心の奥深いところに伝わり、深く残り、時がたっても心の中にあらわれる。乳幼児に絵本を語りかけるということは、耳から言葉が入り、同時に気持ちも一緒に感じ取るという言葉の体験をすることになる。幼い頃、大人によって、あるいは保育者によって読み聞かせられた絵本は、絵本の作者が誰であったか覚えていなくても誰に読んでもらったかは覚えているものである。記憶は、その時の喜びや楽しみが大きいほど子どもの中に深く生き続けている。私には、忘れられない出来事がある。児童保護の仕事をしていた頃に、同じ時期に保護されていた幼児のために絵本の読み聞かせをしたことがある。保護者の事情で一時的に家を離れていた幼児と同じ時期に、貧困や育児放棄、いじめや家庭の事情による不登校、軽はずみな非行をした中学生もいた。幼児は、私の膝の中で、絵本の読み聞かせを楽しんでいた。しかし中学生は、そわそわしたり、恥ずかしがったり、無視したり…。あるいは、私の関心を引こうとしたり、そばに近づいたりするようになった。中学生の少年たちの中には、今保護されている幼児と私との絵本の読み聞かせそのものの体験がなかった子、あっても幼いころの体験を思い出したくない子、思い出して、そこから連なる記憶を消し去りたいと葛藤する子達がいた。しかし、幼児と絵本の読み聞かせの時間をすこしづつでも続けていくと、少年たちの中には、「懐かしい」、「面白い」、「読んでもらったことがある」と穏やかに話す子、私の周りに寄ってくる子がいた。そして、絵本の読み聞かせをきっかけとして、なぜ自分たちがここにいることになったのか、自分の行動を振り返ることになった。古くから読み継がれてきた絵本の中には、心を動かす力のようなものがあると感じさせられる思い出である。大人が本当にこの子と語りたいと思う時、絵本を媒介として子どもとの気持ちが通ずる。本当に語りたいという思いを持って絵本の言葉を届けようとした時、一筋の糸のように心に宿っていた深い感情がよみがえり、その体験が、これからの行動に少なからず影響することになるのである。絵本とは、そんな魅力がある。キンダーブックは、約1世紀、そんな魅力を届けてきたのだと思う。終わりに、共同研究者の進藤令子氏、株式会社フレーベル館、株式会社フレーベル静岡、絵本展開催の準備に協力して頂いた関係職員の方々、特に本学図書館職員の方々には、創意工夫された絵本の展示をしていただき心より感謝する。

参考文献 「フレーベル館100年史」フレーベル館発行 2008年（平成20年）2月
「育てのこころ（上）・（下）」倉橋惣三 著 フレーベル館発行 1976年
「倉橋惣三・保育へのロマン」荒井 冽 著 フレーベル館発行 1997年

